

■北条義時 武将。鎌倉幕府第2代執権。頼朝が没した後の動揺を制して、姉政子とともに幕府の支配を確立した。

ほうじょうよしとき
・ ・ ・ ・ ・ 1163＝ 生。_北条時政の子。江間(小)四郎と称す。政子の弟。

清盛太政大臣 1167＝ 4歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1172＝ 9歳：

鹿ヶ谷事件・1177＝14歳：この頃、姉政子が源頼朝と結婚。

源氏一斉蜂起 1180＝17歳：*源頼朝が平氏打倒の兵を挙げると、父とともにこれを助け、相模の石橋山の戦などに加わる。

平清盛没・ ・ 1181＝18歳：_頼朝の御寝所近辺の祇候衆となる。
・ ・ ・ ・ ・ 1182＝19歳：_父時政の伊豆下国に従わず、頼朝から賞せられる。
後鳥羽天皇・1183＝20歳：嫡子泰時誕生。
・ ・ ・ ・ ・ 1184＝21歳：源範頼に従い平氏討伐のため西国に出陣、
平氏滅亡・ ・ 1185＝22歳：豊後国などで転戦し、功ありと賞せられる。

奥州藤原滅亡 1189＝26歳：
源頼朝上洛・1190＝27歳：_頼朝の上洛に際して先陣随兵となる。

鎌倉幕府始・1192＝29歳：

源頼朝没・ ・ 1199＝36歳：_頼朝が死去し、子の頼家が継ぐと、頼家の外家である比企能員の勢力が台頭。父時政、姉政子らはこれを嫌い、頼家がみずから訴訟を裁くのを止め、13人の有力御家人の合議によることとした。義時も13名のメンバーに加えられている。頼家や比企氏と北条氏との対立は激化し、
執権政治始・1203＝40歳：_ついに時政は比企氏を滅ぼし、将軍頼家を廃し、その弟実朝を将軍に擁立、執権(政所別当)となって、幕府の実権を握った。このとき義時は、政子の命を受け、比企一族が頼家の子一幡を擁して小御所にこもったのを攻撃し、のち一幡を殺害した。

新古今集・ ・ 1205＝42歳：*継母の牧の方は時政に畠山重忠を讒言し、時政は義時に命じて重忠を討たせた。義時はやむをえず武蔵の二股川で重忠を討ったものの、重忠の無実を信じており、彼には不本意な事件であった。この年、時政と牧の方は実朝を廃して女婿の平賀朝雅を将軍にしようとした。義時は政子の命を受け、時政邸にいた実朝を自邸に移して保護し、さらに時政を出家させ、伊豆に幽閉した(牧氏の変)。義時は父にかわって執権となり、幕府政治の実権を握った。
・ ・ ・ ・ ・ 1208＝45歳：

北条頼朝確立 1213＝50歳：_侍所別当和田義盛を滅ぼし、政所別当に加えて侍所別当をも兼ねるようになり、いよいよ権勢を強める。

・ ・ ・ ・ ・ 1216＝53歳：従四位下。実朝の渡宋造船計画を諫める。
・ ・ ・ ・ ・ 1217＝54歳：右京権大夫。

源実朝暗殺・1219＝56歳：_実朝が鶴岡八幡宮で頼家の遺児公暁に殺され、公暁も三浦義村に殺され、源氏の正統は絶えた。幕府は京都の摂関家から九条道家の子頼経を迎えて鎌倉の主とした。しかし実際に鎌倉の主として御家人を統率したのは政子であり、幕府官僚機構の頂点にある執権義時はこれを助けた。

承久の乱・ ・ 1221＝58歳：*後鳥羽上皇は義時追討の宣旨を出して兵を挙げ、承久の乱がおこった。義時は子の泰時、弟の時房らを大将軍とする大軍を送り、京都を占領し、上皇を隠岐に流し、泰時・時房を六波羅探題として都にとどめ、朝廷との交渉、京都の警備、西国の政務などに当たらせた。また上皇方についた貴族・武士の所領3000余カ所を没収し、戦功のあった武士をそれらの土地の地頭に任命した。乱の結果、幕府の勢力は西国にも伸び、その支配はいつそう徹底するようになった。

親鸞真宗始・1224＝61歳：_乱後3年たって、義時は急死した。病死とされているが、死因には不審がもたれ、近習に刺殺されたとか、妻伊賀氏に毒殺されたとかの説もある。